

# 2018年8月定例自然観察会実施報告書

2018年8月21日

六甲山自然案内人の会4班 陽川成鎮

## 1 : 概要

- ① 実施日時 2018年8月18日(土) 午前9時30分～午後2時30分 晴天
- ② テーマ 夏の緑陰をもとめて!
- ③ コース 芦屋ゲート～芦屋谷～東おたふく山バス停～蛇谷堰堤～土樋割峠手前～東おたふく山バス停
- ④ ポイント 盛夏にせせらぎ沿いの涼しい道で、川沿いの植物を観察。植物が気孔から水分を蒸発させ、あたりを自分に相応しい温度にしているのを実感する。
- ⑤ 参加者 ビジター40名+会員 27名=67名(会員数の内 4班員は16名)  
参考: 自主研修会(8月11日) 参加会員数 33名(内4班員12名)
- ⑥ 配布資料 観察会ルートマップ及び植物リスト
- ⑦ 班リーダー  
ビジター1班 山田、ビジター2班 竹上、ビジター3班 長尾、  
ビジター4班 陽川(敬称略)

## 2 : 観察記録

- 芦屋ゲートバス停に9時30分集合。(4班員は8時46分から準備)
- 今回のコースは途中トイレが無いことから事前にトイレを済ませていただくことをみなさんに繰り返しお願いした。ビジター班を4班にまず分け、引き続きコースの説明と注意事項を行った。ビジター参加者が多いこともあり各ビジター班の人数把握を念入りに行った。



ビジターへの説明風景



説明風景

- ① まず、幾分か暑さがましになったとはいえ、まだまだ暑い盛りなので、ビジターの皆さんに必ず水分補給することを忘れないで下さいとお願いした。それと、班から離れる時は必ず声を掛けて下さるようにお願いした。
- ② いよいよ観察行です。最初に温度の話です。先週(8月11日)、放射温度計で温度を測定すると、芦屋ゲートバス停のアスファルト舗装の上の温度は $51^{\circ}\text{C}$ でしたが、川沿いの道の土の上の温度は先週の計測値で $25^{\circ}\text{C}$ でした。こんなにも違うものかと話している本人も驚いています。おそらく土の下の水脈が浅い位置にあるのではないかと考えられますが、植物の葉の裏の気孔からの蒸散による気化熱を奪うことでも、廻りの空気を冷やすことで温度を下げていると思われる。書物によると、葉の気孔からの蒸散の水分量と池や海等の葉と同じ面積からの蒸発の水分量は同じだそうです。今日は先週にくらべると、暑さも幾分かやわらいでいます。
- ③ 下の坂道へと降りると、途中にトウダイクサ科のコニシキソウとオオニシキソウが並んで観察できます。

- ④ もう少し進むとアカメガシワの木があり、湯浅さんより花外蜜腺等の説明がなされる。
- ⑤ 川の縁まで来るとアオギリがある。この木は花葉が心皮に変化しているのがよくわかります。又、樹皮が緑色なのは樹皮の細胞に葉緑体が多く含まれ、光合成しているらしい。反対側を見ると、橋の上から離れたところに、ノリウツギやセンニンソウそしてボタンヅルの花が見える。



アカメガシワの観察



ボタンヅルの観察

- ⑥ 川沿いの小道に入ると、足元にいつも見かけるオオバコ、又の名は車前草、踏まれても踏まれても維管束が切れることなく、生きていく逞しさに感心しつつ進む。右側につる植物が見られる。ヤマノイモ、オニドコロ、スイカズラ、ヒヨドリジョウゴ、ナツフジ、アオツツラフジ、ヤイトバナ（花が咲いていたので、ヘクソカズラとは言えませんでした。）意外とノダフジは見かけない。もう少し進むと、ビジターの方からの質問で気づいたムラサキシキブ。花は一部咲きでしたが、花のかわいさに皆で感心する。次にカスミザクラの葉柄の毛を観察、マルバアオダモの幼木、イヌザンショウの香りをビジターにも嗅いでもらう。この香りは全員が納得される。

左に曲がり、右へと曲がり、小さな橋も何度か渡る。狭い道で人も比較的少ない道なのだけれども、橋はコンクリート製の頑丈な造りなのが少し違和感があるが歩きやすい。

途中、大きな石がごろごろ転がっている道が続いて歩きにくい。

タニウツギ、クロモジ、コバノガマズミが多い。コバノガマズミは赤くなりつつある実を付けている。

タニウツギの蒴果、クロモジの雌株にはまだ青い実が付いている。

イソノキは葉がコクサギ型葉序になっていることを説明する。キガンピが花を付けている。葉は虫に食べられて無残な姿になっている。

ヤマナラシの幼木が沢山生えている。しかし、葉柄はまだ短く、扁平に成っていない。



ムラサキシキブの観察



キガンピの葉と花（先っぽ）

- ⑦ リョウブの花が咲いている。別名の竜尾の形をしている。数少ないがツユクサの花が可憐で、美しく咲いている。道を挟んで、ノリウツギとヤブウツギがある。葉の表の毛の違いが比較できて良く解る。キブシの雌株が青い実を付けている。キブシも雌雄異株です。雌雄異株という進化は、おそらく数千万年の長さで変化していると思われます。その変化の一コマを私たちは見えています。雌雄異株の植物に両性花が有っても、オシベが花粉を出さなかったり、メシベが退化して受精ができなかったりしているようです。





キブシ



リョウブの花

⑧ ナラ枯れが見られる。ナラ枯れはカシノナガキクイムシが6～8月頃健全なカシ類の木に穿入し、穿入した個体の集合フェロモンにより、集団で集中的に穿入する。穿入した際にナラ菌を伝播し、ナラ菌の繁殖により、水分通道機能が悪化し、急激に枯死する。去年は最大の被害があったが、今年はカシノナガキクイムシの天敵、ルイスホソカタムシが現れ、被害が減ってきているようです。エゴノキ、カマツカ、シャリンバイ、そしてナンキンナナカマドの赤い実等が見られる。



ナラ枯れ



ナラ枯れ

⑨ 一旦アスファルト道にでる。ヌルデの木があり、虫こぶが沢山付いている。ヌルデシロアブラムシの作業らしい。昔は虫こぶを利用して、お歯黒や布を染める材料として使っていたらしい。又、戦国時代の武田信玄の軍はヌルデの実を塩の代用品にしていたらしい。甲斐の国は内陸部なので、塩が手に入りにくかったのだと思われる。ヌルデの実の成分は塩化ナトリウムではなく、カルシウムの化合物なのですが…。

再び山道に入る。ガンクビソウの花を見ながら先へと行く。六甲山系ではあまり見ないオオツクバネガシ。オオツクバネガシはアカガシとツクバネガシとの交雑種です。葉は先の方だけ鋸歯が有る。すぐその先にアカシデがある。幹がごつごつしているのがこの木の特徴です。先へと行くと、ノリウツギがあちらこちらにある。このコースはノリウツギが多いようです。ノリウツギはその樹皮を和紙を作る時に、つなぎの役目をする原料として使うので、ノリウツギと言う名前になったようです。



ガンクビソウ



ノリウツギ

- ⑩ 先へと進むと橋らしい橋に来る。両端にケヤマハンノキ、渡ったところに又キガンピの花。道に水が浅く流れている。上には緑の日傘、下は水冷式クーラーのよう。このコースの一番涼しい所である。右手にシヨウジョウバカマの葉が残っている。左の山道に入る。なだらかに上へと登る。右にタンナサワフタギが静かに生えている。まだ1メートルくらい。この短い山道の最後に、右にマユミの木。又アスファル道に出て階段を上ると右にアマヅル、すぐ先が東おたふく山登山口バス停です。ここで、芦有道路を車に注意しつつ渡る。すぐ右にイタチハギ。右に曲がり、なだらかに登りを歩いていくと、道路の左につる植物のムベやカラザンショウが見える。どんどん先へと上って行くと、キンミズヒキの群生、ゲンノショウコの白花、ヌスビトハギの花等が見られる。少し先へ行くと、右にイイギリ。やっと昼食の予定地、蛇谷堰堤に到着。予定通り12時半です。13時に熊木さんの芦屋川や土樋割峠の説明を聞く。なるほど、どの地にも歴史や言葉があるんだと感心する。13時15分に土樋割峠の途中にあるミカエリソウまで向かう。

途中左手にハエドクソウ、ヒヨドリバナ、トベラ。ミズメの大きな木。六甲山系には珍しい。ビジターと共に匂いがかぐが、あまりわからなかった。あまり深く木を傷つけるわけにいかなだろうし…。

この道は左右にムラサキシキブだらけ、車止めの横にウラジロガシ。そこを超えると右手にミカエリソウが見える。葉が少し食べられている。ミカエリソウメイガやスギタニアオケンモン等の好物らしい。そこから引き返す。途中オオカモメヅルの小さな花が見られた。

東おたふく山登山口バス停まで戻ると、14時25分頃だった。

ここで最終人数の確認をする。第4グループはバス停までビジター10名で行動した。一名は車で帰られ、他9名も全員いらっしやるので解散とした。



熊木さんの芦屋川の説明



ヒヨドリバナ

- ⑪ 解散後9月の担当班の5班に観察用具の引継ぎを行う。  
バスが混むので、ビジターは先に14時36分発のバスに乗っていただく。  
4班は、15時2分発のバスに乗る。

#### 感想

今回の定例自然観察会は、ビジター参加人数が40名に対して、コースの道の幅が狭いため、4班体制は(1班当たり10名)少々厳しかったかもしれません。

コースの選定は夏向きで良かったと思います。

何よりも無事に終えた事が一番良かったと思います。

最後に一句 夏山に 水の音涼し 観察行

■追記：今回の定例自然観察会は 8 月の盛夏の時期の開催という条件の他、集合場所が駅前ではなくバス停であることからビジター参加者はあまり多くはないだろうとの憶測があった。4 班のメンバーも健康状態がすぐれない方や家庭の事情で参加できない方も多い。そのような状況の中、ビジター班については 4 つの班の体制で進めた。しかし結果的にはビジター 40 名の参加となり説明する場合には少しきつく、一班 6～8 名程度になるような体制であるべきだったと反省する。

また定観本番に来られた他班の会員の中に自主研に参加された方がいなかったこともあり定観本番で他班の会員のみなさんにご案内できないままフリーでの観察をお願いすることになってしまった。今回は定観での他班会員は 11 名だったのでビジター班と混じっての観察でも良かったと反省する。

そして最終的には、少々大変でもビジター 5 班体制とその他に会員を本番に案内できる 5 + 1 のインタープリター体制が今後求められる。そのためには次回に向けて 4 班各位のチャレンジをお願いしたい。

（記：班長 山田雄二）